

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり児島		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の質向上を常に意識して運営を行っている。	◎朝礼・昼礼・終礼を通した、個別支援計画の振り返りや日常生活状況を実施している。 ◎事業所内勉強会を通して、支援のスキルアップを図る。 ◎法人所属専門職(ST・OT・PT)へアセスメントや支援方法情報の提供依頼	◎専門的な支援の提供に向け、更に日々の振り返り時間を充実させ、事業所内研修の充足を図る。
2	ケアコラボを活用して保護者・関係機関連携を図っている。	◎電子連絡帳の活用により、保護者や所属園に対して文面+写真で日々の記録を共有することで日中活動の様子をイメージしやすくする。 ◎日々の困り感やお子さんの成長についてリアルタイムに共有することができる。	◎継続してケアコラボを使用して積極的に共有を図る。
3	保護者支援が充実している。	◎ケアコラボを用いた保護者との情報共有、保護者勉強会の実施、懇談の実施、親子で参加できる行事の実施など、保護者の方と積極的に情報共有できる場を設けている。	◎今後も継続し、勉強会や茶話会等、保護者の方が集い、悩みを共有できる場、情報交換を図ることが出来る場を増やしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援が不足している。	◎事業所内に専門職が常駐しておらず、より専門性の高い支援の提供が出来ないことがある。 ◎職員間で利用児への対応が統一できていない場面がある。	◎外部研修への参加、専門職招いて事業所内勉強会を実施する等、職員のスキルアップを図ることができる研修体制を構築する。 ◎定期的な振り返りの場を設け、利用児への対応について意識統一を図っていく。
2	地域との繋がりが不十分	◎現状、事業所内での支援が中心であり、外部へ出向いたり、地域と交流を図ったりする大々的な機会を設けることができていない。	◎地域資源を活用した活動設定(買い物活動など)、日頃から関係性がある地域の場に訪問する等の機会を検討していく。 ◎児島地区の児童発達支援センターや所属園との交流をする機会を検討する。
3	卒園児のフォローを積極的に行うことができていない	◎年長児が利用終了となると、その後のフォローを殆ど担うことができていない。	◎次年度より、小学校1年生を対象とした放課後等デイサービス事業を開始するため、年長⇒小学校1年生の環境や人の変化の壁を支援する体制を構築する。 また、利用児だけではなく保護者の困り感にもよりそい、就学後のフォローアップを行っていく。 ◎放課後等デイサービス利用終了後のフォロー体制についても今後検討し、卒園児の活動等も事業所内で取り組むことができるように調整していく。